

大和の光

8月号

《発行所》

大和教団
仙台市青葉区錦町2-4-24
大和教団本庁
電話 (代) 022-261-2525番
振替 仙台 02220-3-45512
発行人 大和教団 定価50円



神紋

八咫鏡と太陽をかたどったもので、国家の隆昌と世界の共存共栄を意味しております。

魂は永遠に消ゆることなく 大和帰神合祀墓例年祭



七月一日、月始祭に引き続き十時より大和心学講座で、此度編纂刊行させて頂いている「ころろ」の教書より抜粋した教えの文言を紐解かせ頂いた。紐解けば解く程、教師等の不足欠落点を如実に神諭し下されているのを悟るものではあるが、されど、御教えの尊さを覚り、反省、身に付けるべく信念、努力、実行次第ではある。

七月に入り日々強き大神の導きを拝している。昭和二十九年に開祖様に大國主大神様が神挂りて授けし大和拝の真義を説明すべく動きとなっている。この神拝作法は全人類、全世界の国を救わんが為にとの神言葉がある。これまではこの御教えを何となく事なしてきた感があるはずで、めずであった。

私はこれまでも平成七年一月の頃「神拝作法の稜威と神祕を解く」の教書を記めさせて頂いたが、その作法の実践にて、大神の申し伝えられし偉大な救いが叶えられるを、私は真に求め、その道を究明したのかは正直申して、なかったものと。真に信じる力をもって、実践してはこなかったことを、今更ながら申し訳なく、恥入るばかりであった。今、その神拝作法の深きを身につけるべく、御神導の任に、実践、習礼を励行し

ている。神の授けし祈り言葉の深きを、御手振りの神祕を追求、解明に精進している。これまで大和の信仰にて一番の要の神行に心及ばずできてしまったことで、大神の御力を得られなかったことに、道の開きのあらうはずもなかったを、今更ながら反省すばかりであった。いよいよ、「大和の大御名で、此の世を清め為せ」のご聖業の天之岩戸の開かれし



勢

ものと。これからは私ども「みこともち」が御神命の実現を実行なしてゆかねばなきことを真底より覚悟せねばない。

この月は縁神出羽三山登拝行が始まる月となる。参行者も昨年と同程度ではあるが、開祖様の御心を心として、教師等には強き信念をもって精進して欲しいものである。世情は内憂外患の最中にあるが、

教主様随想記

大和神隨らの道(六)

その後、知己を得た、脱カルマ、靈動法をの著書を発刊された中野裕道先生の元で、靈動法の研修会に参加させて頂いた。男女十人余の練成会で静岡の修善寺近くの温泉宿にて七日間程の練成会であったと記憶するが、定かではない。石田先生から日本神道会の小誌を頂いたことから練成会とはどんなものか興味を持ち

会に出席させて頂けるか、電話をさせて頂いた。当初は身分を伏せておいたが、何回か参加するようにになって、身分を明かした。私共教団の御祭神が大國主大神にて出雲大社とは良きご神縁を結ばせて頂いていると話すと、私も大社教の教師という。仏教大学を出て、写真学校でも学んだとのことで、私共に親近感をも

大和魂をもって万事に挑んでほしいものと希う次第である。テレビ等の報道では、ロシアとウクライナ、イスラエルとハマス、イランとの戦いは、何れも一方的正義論をかざし、攻め、罪なき人、女性、子供をも苦しめ殺めている。権力者は何の憐れみも、慈愛、慈悲もなく、自分の欲望を果さんとするだけである。万物への感謝の心はサラサラ無きが故に、人を殺すも何とも感じていない非道の心、非情の心となり獣と化している姿としか云いようがない。この如き権力者、為政者等が、己が国の政治を司り、世界を牛耳ろうとしている。その行為がこの地上を、地球を宇宙大気圏を破壊していることへの反省もなく、俺我の欲望を果そうとしている。この地上に、何故に生を享けたか考えることもせず、愚かな戦争をしている。人間の悪しき業に感応(かま)けられ魔神となり下っている。神の審きの大きな事象のこめうちに、気づかねばなきを、そして今や、その時が来ているを悟證すべきであろう。この美しい地球という大生命体を、これよりの将来をないう子供等に永々と残す使命をもって

令和七年七月十三日

教主秀胤

たれたようだ。出雲大社の東京分祠に奉職されている若い先生も参加され、すぐに親しくなった。何か面白いところかも知れないと思ったのが正直な印象であった。温泉に一日、数回入り、体を弛緩し、体の緊張をできるだけ弛めて、鎮魂靈動法を行なうことであつた。一座、一時間半程か、目を軽く閉じ、静かに座しているだけ。後は体の動くままに任せる。立ちたいと思えば立ち、ゆらしたいと思えばゆらすという自分の意識するでもない自然の動きに委ねるだけという行法であつた。

(二面三段へ続く)

大和帰神合祀墓 例年祭並埋納祭



齋主教主様による祝詞奏上

よりカポート内に納められた。この間、教主様による御霊安穩のご祈念が行われ御霊の安らかならんことを一心にお祈り申し上げた。教主様玉串拝礼の後、参列者もそれぞれ玉串を手に奉奠申し上げ、御霊の安寧をお祈り申し上げた。

修祭後、教主様より御親教を賜り、教主様は「肉体は土に還り、魂は天に還るが如く、大自然の中に抱かれ、大自然の中に還り、また再び来世は世人の為となり得る尊き人としての人格を持つて生まれて来られるように。」との、帰神の想いを込めての墳墓であることとを説かれた。参列者は自然の理の循環の内にて、幽冥主宰大神のさらなる大稜威を戴きて、御霊様がより清き浄霊の世界へ導かれんことを感じ得たものであった。

七月六日午前十時、仙台市青葉区のみやぎ霊園において、本教信奉者の終の棲家となる大和帰神合祀墓の例年祭並びに埋納祭が斎行された。当日は快晴となり、蒼々とした空の下、祭壇には海川山野の種々の神饌物が供えられ、齋主教主様により祭儀は執行された。

開祭が告げられると、先ず修祓之儀、清祓之儀を執行、石塔四面、帰神墓、御亡骸、御霊石、帰神碑が清められ、齋主教主様により祝詞が奏上された。引き続き此の度新たに大和帰神合祀墓に鎮まります御亡骸、御霊石、霊神碑の順にそれぞれ言上げがなされ、御亡骸と、一柱毎に霊神名が記された御霊石が祭員の手に

教主様随想記 大和神隨らの道(六)(続)

何座か実修している内に要領を得た。これも、これまでの諸々の修行を為した基盤があるからであらうと。無意識、無我の境地というのか、そういう瞬間が出てくるを体感するものともなった。

何回かの参加の後、嗣親も一緒に誘い同行するようになった。親子での参加に、中野先生もお喜びであった。その後、教団を参拝、教祖様とお会いするご縁ともなった。中野先生の著書も数種の残数をお譲り頂いた。

九十歳を超えて帰幽されたを出雲大社東京分祠の青年より漏れ聞くものとなった。自分は神伝直授の靈感を持つとも話されておられた。朝食後九時頃より第一座を仕え、昼過ぎに第二座、その後第三座を仕え、夕食後に、茶話会のごとの座をもつて、いろいろのことを話されておられた。私にとっては行の在り方等にて、私の霊能を開発する行ともなつたようだ。神伝直授、神界直通のごとの神託霊能行を私自身、向上進化のヒントを得る行ともなった。

鎮魂靈動法の原点は潮見充氏の自然官能誘起法にあるという。体を整え病気を治すには大変効果があるという。先生より数冊、霊動法入門という著書を譲り受けた。その後、私は神霊に対する観念の相異なるをもつて離れた経緯があるが、それでも霊能を開発するに一つのヒントを得られただけでも有り難いと思つてゐる。先生の著書の「脱カルマ・霊動法」の巻末の経歴を、敬意をもつて記させて頂く。

中野裕道 一九一五年生まれ。立正大学文学部仏教学科卒。オリエン

タル写真学校出身。専門の法華経教のほかに神道・ヨーガ・運命学などを研究し、霊動体験は半世紀を超え、今なお実地に指導中。月刊「日本神学」発行は四十年目。著書に「イガ霊動法、神ながらの道を行く」。その他仏門出身であるが、出雲大社教師となる。月刊「日本神学」主幹。この著書は昭和六十二年十二月に出版されたものとみる。「まえばき」の一文に「霊能力の方面は地神系の女性に任せ形とし、天神系は不十分ながらこの私が務めることにしたのである。ところが地神役が失踪して行方知れずとなつたのを機として、私には独特の霊能が開発されるに至つた。」と。また「私の創案したとも云えるこの鎮魂靈動法は、卑しくも神事なのであるから絶対に盗用はできない。自分の立場を固守しながら、何かを取り入れようとしてやってくる人もいるが、これは私の霊動法に飛び込む姿勢になつていないのである。又、慣い憶えたつもりで私から離れてやってみても、私の道場で体験した神と柱人と命人という三位一体の行は成立しないのである。何の規則も形式もない代わり、その点は極めて厳しいものがあることを知つて頂きたい。」と。誠に然りではあると。先生は私の長兄の保積克信氏が昭和五十二年八月に刊行した著書「日本神話にみる生きる知恵 大國主命六話」を何故か求められておられ、この錬成会の教本としたいとのことでお譲りをさせて頂いた経緯もある。何れにしても、大國主大神様の信仰のご縁に導かれたの学びであることを覚るものであった。石田博昭先生には、私の知らなかつた諸々の神道の世界、霊学の専門書を取り扱いし出版元、そして数万円の著書でも、一つでも自分が得るところがあればそれで良書との考

えをもつこととか。そうでないと、何だこれだけかとの心をもつことになるとも。やはりご自分ご自身も古神道という未知の世界を求め、多くの著書、先達者とのご縁を求められて来られた師でもあつたものと。後大和神道の教学の一端を整える力ともさせて頂いている。石田先生から頂いた教学資料のお蔭で、荒塗道齊先生の子孫の方とのご縁にて、貴重な遺されし多くの書籍をも譲り受けることができた。また、ホツマツタエの松本善之助先生、その門人である盛岡在住の嫡男先生とは親交を深めさせて頂き、大國神社に講師としてお迎えをさせて頂いた。鳥居礼氏、池田満氏の関係書籍も求めさせて頂いた。ウエツフミ研究の第一人者である吾郷清彦先生の元にも行きお会いさせて頂いた。島根県の大田市かの施設に入られておられたが、一時間余もお話しを下さされた。いろんな人が来られるが、人をみて法を説くが如しで接してこられたとも。仙道連の代表である求進坊玄進子先生には文を通し、月刊誌の購読をさせて頂いている。内容は高学びの道の一つと云えるものと。何日かは練成会にも、と思つてはきたが、中々その機会を得られずに来てしまつた。開祖様のお蔭をもつて、これまで多くの先生方との知己を得てきたが、仙道の先生以外は残念ながら皆さんが神上がられてしまった。私共教団の錬成会にて、その行統、学統の相応しきものは少しく実践して参りたいものと念じている。古神道、密教、運命学の沢山の著書の蔵書がある。後進の者への参考の書籍として遺してゆきたい。時期来れば大和図書館を建設して大和大道の資として欲しいものと希つてゐる。

私は父母の愛情に包まれ、師と仰ぐ出雲の千家達彦先生、吉野の五條

順教先生、名古屋の石田博昭先生を始め生涯の恩師であられる半澤義巳先生、そして、合気道の小林保雄先生と、全てが神の御図りの中でのみちびかれし修行人生であつたものと信念するものである。また大和教団教務総長時代、教統継承をもつての第二代教主(おしえのおや)の時代に顧みれば(公財)新日本宗教団体連合会とのご縁の中での活動にて、日本宗教界の動きを学ばせて頂いたこと、殊には平成二十六年六月に、新宗連の理事長就任と同時に日宗連の理事長にも就任させて頂き、日本で活躍されている神社、教派神道、仏教、キリスト教の先生方と知己を頂き学ばせて頂いたことにも、私にとりては、大変有り難きことであつた。殊には、新宗連活動の一環として北朝鮮拉致者救出の活動展開を。また、有志教団の皆さんでの靖國神社昇殿にて祈りを捧げしごとには、誠に有り難き力を賜りしごとにて、私の熱き思いを叶えさせて頂いたは忘れぬものとなつた。立正佼成会会長の庭野日鏡先生、円応教教主の深田充啓先生、解脱会法主の岡野聖法先生には大変、お引き立てを賜りしを、そして、諸先生方の温かきおこころにてお育てを賜りしごとに深謝申し上げるものである。

結びに出羽三山神社の歴代の宮司先生を始め神職の皆様には、特段のご厚誼を賜りしごとに謝するものである。

私を神隨らの道に誘ひし祖父敬一郎之命、吉野の修行にて助け下された父謙光之命、修行の道をおみちびき与え下された開祖様、そして、我が守護神守護霊神に、天地の神霊に心よりの感謝を申し上げ、序の章の結びとするものである。

令和七年七月十一日
教主秀胤

立教八十年に向けて大和の御教えを天地に満たしましょう

教主様御親教



教主様より御親教を賜る

亡くなったら土に還りますと。
魂は永遠に消ゆることなく
神となるものにあれば

大和の信仰は神身成就の信仰です。土に還る為には、このような墳墓、土饅頭を造って亡骸は木綿の袋に入れて、そうして自然に浄化して参ります。御霊石もこうして納める特別なお祀りの仕方です。体は甦り、そして位の一番高い人としての命を頂かねばなりません。

草や木や獣、禽獣草木鳥翼虫魚と諸々の命があります。願わくは、人格の高い人たるに私たちの亡骸が提供出来たらと願うものです。

それも尊いお務めをする仕事をされる方の体となって甦った何よりです。同じ人でも、悪いことばかりしているのでは如何にもなりません。尊い方の体の一部となつて甦りたいと願うものです。

魂は永遠に消ゆることなく、魂はこの奥都城、此処に宿ります。名前をお呼びすれば今すぐに来て下さいます。

神道墓は先が尖っておりまふ。仏教は平らです。神の元に行く、天に帰る。そういう教を形として示しているお墓の象です。本教の帰神墓は一般世間の皆さんが考えている様なお墓ではありません。

毎朝夕、私たちは今、事上げ申した御霊様をずっと祈り続けます。ただ埋葬したからではないのです。日々祈り続けます。その力をもって、清まつて参ります。

体はこの大地、大海原から皆生まれます。山であらうが何であらうが全てが海から生まれました。うなはら」と云います。海の原。ものや生き物は草や木でも色んなものが野



教主様を真中に記念撮影

身と成り。皆さんの守り神、そして信仰者の世の中の守り神となるだけの力を頂けます様に願うものです。

どうぞ皆さん、死んだら終わりではありません。死んでからが始まりです。大和の教は幽世での生活をどの様に生きるか、その死に様、死に方にあります。

生きている時お願いをして色々な問題解決をされている人が沢山おられます。だからといって幽世に行つて、良い世界に行けるかどうかは？なのです。それは皆さん方の心の在り方、清められているかどうかで決まります。

この世で救われ、神様に自分等が幽世に行きます。その時に自分等の心、魂にどの様な光があるかなのです。穢れていれば十ワットとか二十ワットの薄暗い所にしか行けません。救い難い者は真つ暗闇です。どうしようもありません。

どうぞ祈りと感謝と奉仕の生活を実践して下さい。それによつて神身成就の信仰です。神拝詞を拝んで、こういうことを神様は諭しておられるのかと。宇宙の真理というものの、生と死というものの、そういう一つの教を神拝詞は諭しています。生きる知恵です。どうすれば楽に生きられるか、どうすれば因縁が解除されるか、そういうことを詳らかに神拝詞は教えています。ただ拝むだけではなくて、しっかりと理解をして拝んで頂きたいのです。朝晩、出来れば三十分ずつ一日の中で一時間は神様や仏様、自分と向き合う時間にして頂ければ必ずお導きがあります。

開祖様に願えば、開祖様は手を伸べて諭して下さいます。どうぞこれからも信仰を高められて、皆様のご先祖様を清めて下さい。大変ご苦労様でした。

大和帰神合祀墓例年祭・埋納祭に寄せて

本日は大和帰神墓例年祭並び埋納合祀祭を教主様斎主のもと、祭員を仕えさせて頂きました。誠に感謝申し上げます。

教主様に言上げ祈り祀られ合祀されました御霊様と施主の皆さんが喜びと安心を頂いたものと確信致しました。

お天気も雲の動きによりさほど暑くなく天地の神々のお計らいを頂きました。ありがとうございます。

直会にて皆さん一人一人よりお祭りを終えて一言ずつ感想を頂き、始めに信奉者代表挨拶を阿部勝雄さんより頂き、何人もの方々が教主様の祈りに感動、感謝され、祀られた御霊の想いを感じ、涙を流して喜びと安心を語って頂きました。

朝倉秀之さんは遠藤先生の日頃の霊言にて、今日はお祀りした御霊がハレの日の頂点を迎えた日だと大変喜んで安心されたことを悟りましたと笑顔で申され、私の人生のやることとして来年は美豆子を三柱祀らせて頂きます、そのためにも頑張りますと皆さんに話されました。

最後に田中教師が話し、教主様の祈りにて御霊さんが天に上がるのが見えて、神様が導いて下さったことを感極まって涙を流しながら語りました。

(保積志胤教務総長)

教主様、日々のお導きに心より深く感謝申し上げます。

本日は大和帰神合祀墓例年祭並び埋納祭のお導きを賜り、心より厚く感謝申し上げます。祭員奉仕をさせて頂きまして、誠に有難う御座いました。

教主様の尊いお祈りを賜り、本日埋納されました御霊様達ほど程の喜びであつたかと存じます。教主様本当に有難う御座います。

阿部勝雄さんも教主様に大変感謝を申しており、今日の儀式を本当に喜んでおりました。

今後多くの人を、御霊様を帰神墓に結び、お救いをさせて頂いたきます。教主様本日も誠に有難う御座いました。

(畠山真由美教務部長)

教主様、本日、大和帰神合祀墓例年祭・埋納祭の斎主をして戴きました事、大変有難う御座いました。

教務総長、理事、職員の皆様、有難う御座いました。又、昼食は参集殿で頂きました。

菊地伸子さん、金子三保子さんも大変喜びました。

大神様、教祖様、教主様、教務総長様有難う御座いました。

(紺野和子教師)

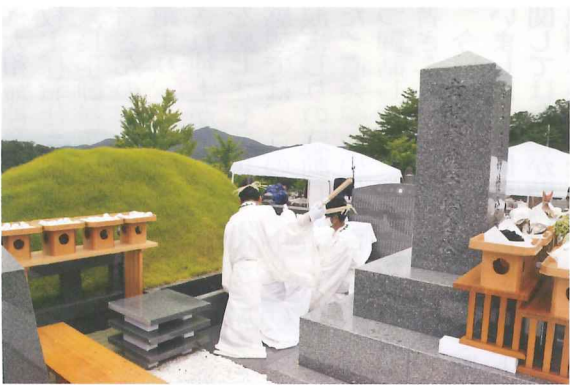
本日は、七時半に先発隊はみやぎ霊園に出発、各舗設を進めました。今回は新しく購入したテント三張は簡易、軽い、綺麗、片付けやすい等利点が多く大変役に立ちました。

天気は晴れておりましたが、程よく雲もかかり涼し気な天候にもなりました。

教主様の御祈りの素晴らしさに御霊様もさぞ喜びの事と拝察いたしました。

直会は、皆で楽しく談笑、涙を流されてお話しされている方も居られました。

(熊川知長祭儀部次長)



祭員による御亡骸・御霊石埋納之儀

大和婦神合祀墓例年祭、埋納祭に
教主様お仕え賜り感謝致します。

長年御縁を頂いた教師、多くの信
者さんの御霊様が安心して帰神され
鎮まり、大変喜ばれて、浄霊浄化な
され神上がられてゆく多くの御霊様
を感じさせて頂き、直会の席の私の
感想では、この事を申し上げ、少し
涙まじりの感動した話となりまし
た。直会参加の信者さん方も一言ず
つ御話し頂き、御霊様を思い涙の信
者さんもありました。

今回は新しいテントに感謝で御座
いました。準備も片付けもテントに
関しては負担が助けられました。扇
風機も良かったと思います。昨日、
本日と汗だく準備片付けに身体、腰
も守られたことに感謝です。

(田中道敏教化部次長)

教主様いつも御教導を頂きまして
ありがとうございます。

天気に恵まれて大変に暑い日でし
た。熊川先生を始め男性職員は埋納
祭に向けて準備を一生懸命に頑張っ
ておりました。朝七時半出発にて、
熊川先生、田中先生、鈎持先生と畠
山さんと私でみやぎ霊園に伺いまし
た。諸々の準備品運びました。祭
壇の準備が終わってから神饌の調理
をさせて頂きました。大変厳かな埋
納祭でした。

直会の席上では朝倉さんが婦神墓
に入れた御霊さんに最高な所に入れ
て頂きこんなに嬉しいことはない
感謝された事をお話しされました。
熊谷寛さんは用事があるので直会に
は出られませんでした。後片付け
を手伝ってくれました。

(遠藤恭子教師)

日々の御教導に感謝申し上げます。

昨年の埋納祭に比べると今年の例
年祭・埋納祭は雲がかり、いくら
か涼しくも感じられましたが斎主の
教主様はいつも大変だと思えます。

私は今年埋納後取のお役をさせて
いただきました。昨年、見ることの
出来なかったカロートの中を今回見
ることが出来、感謝致します。カロ
ートとは唐櫃(からびつ)という言
葉からきていて死者を葬る棺という
意味で、墓石の下にある、お骨を納
めるところと、調べたところ書いて
ありました。

大和婦神合祀墓に祀られし御霊様
は本当に深く清まっているカロート
に納まることを力強く布教出来る
と確信致しました。

また、今日の参列された信者さん
も直会の席で今日の儀式に感激して
涙ぐんでいた方が多かったです。白
玉砂利に囲まれた清々しい合祀墓で
あることも強調しつつ布教してい
きたいと思えます。ありがとうございます。

(須田公子教師)

日々のお導きに、感謝申し上げます
す。本日は尊き大和婦神合祀墓例年
祭並びに埋納祭のお導きを賜り重ね
て厚く感謝申し上げます。曇り空に
て厳しき夏の日差しから守られ、時
折清らかな風が吹きわたりました。
暑さで体調を崩す人もなく、無事
に祭儀をご奉仕させて頂きました事
は、大神様のご加護の賜物と心より
厚く感謝申し上げます。直会の席で
は、涙ながらに感謝を述べられる方
もおられました。誠に有難うござい
ました。

(畠山英教師)

教主様、本日の大和婦神合祀墓例
年祭・埋納祭斎主をお仕え下さり誠
にありがとうございます。感謝申

し上げます。昨年の経験を活かえ暑
さ対策をし、祭員としてお仕えさせ
て頂きました。感謝申し上げます。

昨年の八月に帰幽し、一年弱、よ
うやく父も、大和婦神合祀墓に埋納
させて頂く事ができ、感謝と安心と
が入り交じる感情の中でお仕えさせ
て頂きました。参列なされた信者さ
んも直会の席で口々に感謝の言葉を
申しておりました。暑い中ではあり
ましたが、祭儀中は曇空の時折り風
が吹き、昨年よりはいくらかは良か
ったですと何人かの信者さんが申し
ておりました。

教主様ありがとうございます。

(鈎持敦子教師)

教主様ありがとうございます。
婦神墓申し込みが、今回やつとでき
ました。今日は、ホツとしておりま
す。大変、気になっていました。年
祭に参列したこと、とても良き日
となりました。感謝申し上げます。

(佐藤廣子教師)

金剛蔵王大神 奉鎮座六年祭

大國神社に金剛蔵王大神御神像が
建立され、ご鎮座なされてより六年
の歳月を経た、六月二十九日午前十
一時より、斎主教務総長のもと奉鎮
座六年祭が斎行され、御神像大前に
て儀式は肅々と進められた。

御神前には海川山野の神饌が献じ
られ、斎主教務総長が祝詞を奏上、
斎主玉串拝礼の後、参列者が玉串を
奉献申し上げた。

教務総長よりご教話を頂き祭儀は
結ばれた。

金剛蔵王大神様には、年を経る毎
に神威を増し、これよりも更に力強

詣拝 参山 三羽出神 大市神大國神社

教務総長 御挨拶

大和立教六十八周年を
迎え今年も本教団の夏の
行事であります大市神山
出羽三山参詣登拝行が始
まりました。参行なされ
し皆様ご苦労さまです。

開祖様が昭和三年二十
一歳に出羽三山湯殿山に
て修行をなされ、三山登
拝講を起ち上げてより、
御神縁九十七周年となり
ます。開祖様に感謝の誠
を捧げながら、大和信仰
の実践道場としての登拝
行をなされますよう心よ
り祈念するものです。

さて、信奉者の皆様は
ご承知のごと、私どもの
教主様は六月に八十一歳
のお誕生祭を教信奉者の



斎主教務総長による感謝の祝詞奏上

く私たち教信奉者を御守護下さいま
すことをご祈念申し上げます。



行者返しの急坂に挑む登拝者たち (7/27・第3班)



教務総長による道中安全火祭祈禱

皆様と喜びを分かち合いいただきま
した。

今年は、開祖様より教統を継承さ
れ三十年の節目をお迎えなされまし
た。教主様は「行ほど尊いものはない」
との御教えを、覚悟と情熱とに
て、なみなみならぬ修行を重ねてこ
られました。これまでの修行で授か
りし御力により、多くの教信奉者の
皆様、そして悩み苦しむ人々をお救
いをいただき、数多の奇蹟を顕現し
て参りました。

また教化事業におかれても大和乃
大道、開祖様の御教えの編纂など、

私共後世に最も大切な信仰の道標、
信仰の宝をも造り上げていただきま
した。

今年、創社五十周年を迎えました
大國神社の祖霊殿御造営や、地方の
直轄分祠教会道場の建立、千本桜献
木、大小灯笼奉納等、様々に境内清
美事業をも展開してまいりました。

お陰様にて大國神社も、縁結びのお
社、心願の叶う御社として、北は北
海道から南は沖縄まで数多の崇敬者
に愛される、かみやしろとなりまし
た。これまでの御力添えを賜りまし
た皆様に心より厚く感謝を申し上げ
ます。当社大國神社の御祭神は、宇
宙造化三神を始め八柱の神々を親神
大和皇大神と称え祀り、主祭神はこ
の現世とかの幽世を司ります大國主
大神をお祀りしております。

大市神山と称えます約十萬坪の自
然豊かな里山に鎮座いたし、境内に
は六十余柱の摂社末社の協力神をお
祀り申し上げております。

出羽三山の御開祖は能除聖者照見
大菩薩という御方で、第三十二代崇
峻天皇の第三皇子蜂子皇子とされて
おります。今から約千五百年前、蘇
我氏並びに物部氏の争いの中で身の
危険を感じた皇子は、推古天皇元年
京都より海路日本海を北上して出羽
の国の由良港に着かれ、世を人を哀
れみ救う為に修行の道を歩まれ羽黒
山、月山、湯殿山との順にお開きに
なりました。

この時の皇子の御修行の道が羽黒
派古修験道へと発展し、かつては神
仏習合のお山として栄えました。

月山神社は、天照大御神の弟神で
ある月読尊をお祀りしております。

湯殿山神社は御神湯(かみのゆ)
の湧出する霊巖を御神体とする全国
的にも稀な神社で、大山祇神、大己
貴命、少彦名命の三神をお祀りして
おります。

大和の信仰で笑顔のこぼれるような家庭を築きましよう

羽黒山は出羽神社と云い、稻倉魂命と玉依姫命の二柱をお祀りしております。冬季節は積雪のため登拝が出来ないので年中の恒例の大小の祭典は全て羽黒山で執行されます。三つのお山の神々を合わせ祀っておりますので三神合祭と申します。現在、過去、未来の御神徳と御利益をいただける出羽三山のお山駆け登拝であります。大和の信仰は「己の心をつくること」と開祖様は教え諭されております。難しいことではありません。神様をただひたすらに信じ敬うことです。また、「信仰は第一番の仕事です」と説かれております。大和の祈りは大宇宙の偉大なる力をいただき、精神の健全と肉体の健全を図り、神々と御先祖、代々自分の命を受け継いでくださった父母の尊き命脈を知り万物一切に感謝をする心と姿をつくる力となります。信仰の力、この世においてもあの世にても生き通し幸せに生きる力となります。

世界は未だ止まぬ戦争紛争を繰り返してあります。一国の利益と際限なき欲望に溺れ、怒みつらみ憎しみの連鎖と長い歴史の中で怨念の形が子々孫々に受け継がれる恐ろしさを思い知ります。人間の尊厳を脅かすものとは何でしょうか。日本人の大和ごころと、西洋の心の在り様、魂の出生の違いでしょうか。太陽系宇宙の神々の大御心は大調和、大和です。私たちは地球人として、お互いが尊重し、認め合い、許し合い、助け合うことが肝要です。

家族、夫婦、親と子にあっても、お互いを尊重し話し合うことが大切です。万物の霊長としての深き感謝の心を忘れてはなりません。

朝な夕なの祈りと日々の感謝と笑顔の稽古をなされ、大神様におつかえし世の中が良くなりますよう、悩

み苦しむ人をお救いいただきますよう、あたたかく皆さんをお導きをして、共に祈り、幸せに導かれてください。本年も皆様が大神様の大きな御神徳を賜り、神変様の御下駄をもつての祈願、梵天を携えて御先祖様や開縁の御霊さまに慰霊供養を心をこめてなされ、幸せ多き弥栄えの人生となりますよう祈り申し上げます。また来年も、更なる声掛けをしていただき、大勢の人と登拝をさせていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。また来年も元氣にお参りなされますよう楽しみにお待ちしております。大和の祈りは大宇宙の偉大なる力をいただき、精神の健全と肉体の健全を図り、神々と御先祖、代々自分の命を受け継いでくださった父母の尊き命脈を知り万物一切に感謝をする心と姿をつくる力となります。信仰の力、この世においてもあの世にても生き通し幸せに生きる力となります。

七月二十三日、教主様は熊川知長祭儀部次長と鏡令宏教師を伴われ、出羽三山神社を表敬参拝なされた。羽黒山頂出羽神社三神合祭殿に到着すると、阿部良一宮司のお出迎えを頂き、一宮司のお出迎えを頂き、先ずは貴賓室へのご案内を頂き、現況の三山信仰について、阿部宮司から、崇敬者の信仰継承の課題や本年の夏山の動き、またかねてよりの月山の湧水問題等、多岐に亘るお話を頂き、教主様からは、心よりの感謝のお言葉と、本年の夏山登拝受入の感謝が申し述べられた。

引き続き、拝殿へと移動し、正式参拝を申し修めた。正式参拝の後、斎館へのご案内を頂き阿部宮司と共に美味なる精進料理を賜りながら話し笑なされた。

本教と出羽三山との関わりや今後の三山登拝行を教化推進し、御山繁昌となすべく決意をお話申し上げ、

出羽三山神社表敬訪問

阿部宮司のお見送りを受けて帰山となった。

開祖様より受け継がれてきたこの出羽三山の尊き信仰を未来永劫に継承申し上げ、大切な修行、供養、心づくりの道場として、更に多くの参詣者を集えて参りたいものである。

阿部良一宮司と歓談なされる教主様

教化費御奉納
出羽三山神社様
金貳拾萬圓也
衷心より感謝申し上げます

令和七年三山紀行
祭儀部次長 熊川知長

本年の大市神山・出羽三山参詣登拝行は七月十九日を第一班として八月三日の第六班まで執行された。本年は、開祖保積史子様が湯殿山にてご修行の御神縁を結ばれてより九十七周年、また月山大神が尊きご神具、慰霊ぼんでんをご神授下されてより六十二周年という年の巡りである。



阿部良一宮司と歓談なされる教主様



月山にて御来光を拝す (7/20・第1班)



登拝45年掛けを達成された吉田来さん(中央右側)

大和の言霊
幸せは決して向こうから歩いてこない。だから自らの足で立って歩き出すことである。
(大和神典第三之〇二二言)

ある。

早朝の大國神社に集う参行者は、先ず正参道にてそれぞれの御下駄を拝受し神変神社にて道中安全、夫々の願い事の成就をご祈念申し上げ、神変御下駄踏神行を執り行った。

そして御本殿、大國前山三山大神各社を順に参拝した後、祈禱殿へと入殿、道中安全祈願と人形代を申し受け、お清めを為した後、斎主教務総長のもと、特別火祭護摩祈禱を受けた。儀式後、教務総長より、此度の三山登拝の御教導を頂き一路バスにて湯殿山神社へと向かった。道中、寒河江パーキングで休憩を済ませ、無事、湯殿山神社へと到着。巡回バスにて御本宮麓に到着するとそこからは徒歩にて御本宮・御神体



登拝50年掛けを達成された森サキイさん(前列中央)

へと進み、それぞれがご祈願、ご供養を申し上げた。続く、羽黒山の出羽神社では、境内地にて自由参拝を申し上げ、午後二時より三神合祭殿において、太々神楽をご奉納申し上げた。厳肅なご祈禱、厳かな雅楽の音色と巫女舞を拝した。暫し自由参拝の後、宿坊へと向い到着後先ず道中安全祈念祭を斎行。先達教師により、翌日の月山登拝道中安全祈願、各人の清祓、教導がなされた。登拝年掛証授与式が修められ、本年は、東京の森サキイさんが目出度く五十度位の表彰を受けられた。儀式後、教務総長のお言葉を教師が代読申し上げ、登拝の心構えをお伝えさせて頂いた。各自、入浴潔斎を済ませ宿坊での精進料理を頂き翌日に備えての早めの就寝となった。

翌朝、午前二時前には起床し身支度を整え、二時半にはバスにて宿坊を發ち一路月山八合目を目指した。

月山八合目は曇りで、麓の猛暑が嘘のように涼しさを感じる程であった。仕度を済ませ、準備運動、山係里係の説明を受けた後、順にお祓いを受け、登拝を開始した。登拝者は皆、それぞれに祈願、供養を行なから只管に頂上を目指した。本年は小学校低学年の子供たちも参行され元氣に行者返しの急坂の試練に挑戦だ。終日強風が吹いていたが、登頂者は達成感の心をもって、月山本宮にて御祓を受け祈願、供養の祈りを捧げた。時折、山伏による法螺貝の勇壮な音色や掛け声に力を頂きながら、多くの一般登山者、インバウンドの外国人の団体とすれ違う度に山の挨拶を交し夏山登拝は活気を見せた。下山した一同はバスへと乗車、途中チェリーランドで休憩を挟みながら夕刻大國神社に到着した。

到着した一向は御本殿にて、無事登拝帰還させて頂いたことへの感謝を申し上げ玉串拝札をなし帰路へと着いた。

次世代へと伝統文化・信仰の継承をなし、また御先祖供養を自らの足で赴いて行く尊き三山登拝行を、更なる導きをもって一層盛り上げて参りたいものである。

宗教協力の輪の實踐

立正佼成会 表敬参拝

七月二十九日午前十一時、教主様は保積志胤教務総長と田中道敏教化部次長、鏡令宏教師を伴われ、東京都杉並区の立正佼成会本部を表敬訪問なされた。



庭野会長、ご令室の佳重様との記念撮影

法輪閣に到着なされた教主様は、貴賓室へのご案内を頂き、庭野日鑑会長とご令室の佳重様とご面談をなされた。庭野会長からは教主様が公益財団法人新日本宗教団体連合会の理事長、副理事長をお仕えなされた当時の出来事等をユーモアを交えながらお話し下され、教主様からはこれまでの宗教協力や庭野会長からの数々のご厚誼に対しての感謝の言葉が述べられ、暫しの懇談の後、庭野会長、佳重様と共に記念撮影を行い法輪閣をお発ちになられた。



庭野会長と歓談をなされる教主様

解脱会 岡野聖法主ご弔問

立正佼成会本部を発たれた教主様以下一行は、埼玉県北本市にある解脱会の岡野聖法主のご自宅をご弔問なされた。

午後二時にご自宅に到着すると、岡野孝行法嗣(よつぎ)のお出迎えを頂き、岡野聖法主のご霊前にご案内を頂いた。

教主様は岡野法主のご遺影に向かわれて、大和の祈りを捧げられ幾度となく「ありがとうございました。」と感謝の心を申され、公益財団法人新日本宗教団体連合会の活動等を通して親しくご交流を頂いた岡野法主への感謝の誠を捧げられた。お祈りの後、ご令室



解脱会発祥の地である御霊地を参拝なされる教主様



岡野聖法法主に大和の祈りを捧げられる教主様

の貞子様、岡野法嗣と暫しの歓談の中では岡野法主との思い出を語り合ひ、偲ばれた。
ご弔問後、教主様は、解脱会発祥の地、並びに御霊地にある天神地祇太神社殿をご参拝なされ、帰路へと就かれた。
此度、ご丁寧なる受け入れを下さりました立正佼成会、並びに解脱会の皆様には、改めて衷心より感謝申し上げます。

妙智會教団宮本会長御来山



御本殿にて宮本会長を真中に記念撮影

七月三十一日、東京都代々木にご本部を構える妙智會教団の宮本恵司会長が大國神社を表敬参拝なされ、教主様と懇談をなされた。

午前十時三十分、宮本会長は大山に到着されると大鳥居より正参道を参進なされ、御本殿へ参られた。その際、正参道途中の神変神社の神変御下駄に関心を持たれたとお話



特別室にて宮本会長先生と懇談される教主様

しも頂いた。

その後、教務総長のご案内により開祖様奥都城の参拝をなされ、引き続き、教主様、教務総長参列のもと御本殿にて正式参拝が修められた。

参拝後、特別室にて暫し教主様、教務総長、田中道敏教化部次長と懇談をなされた。

妙智會教団は本年開教七十五周年を迎えられ、また仏教精神に基づく世界平和実現を目的とした、「ありがとうインターナショナル」の活動が三十五周年を迎えられること、新宗連における宗教協力の功績等、話題は多岐に亘り、終始和やかに歓談なされた。

宮本会長におかれましては、ご聖務ご繁多の折、遠路よりご参拝を下さりましたこと心より感謝申し上げます。

9月行事予定表

9月1日 朔日火祥神事
9月5日 神光龍神祭
9月11日 親神感謝祭・祖霊万霊祭
延命長寿祈願祭

9月14日 金剛蔵王大神年祭
故保積二郎之命七十五年祭
故保積子やう之命七十六年祭

9月15日 月次祭・五講祭
9月20日 六根大行(21日)

9月25日 開祖祭
9月28日 六根修養会

10月行事予定表

10月1日 朔日火祥神事
10月4日 御魂結之神儀(5日)

10月5日 神光龍神祭
10月11日 親神感謝祭・祖霊万霊祭

10月15日 月次祭・五講祭
10月25日 開祖祭

10月26日 秋の清掃奉仕
10月28日 六根修養会

開祖様御尊父故保積敬一郎之命七十五年祭
開祖様御母堂故保積千やう之命七十六年祭

万燈慰霊祭

令和七年九月十四日(日)
午前10時三十分より

大國神社